

(事例24) 33歳男性、ロープ製造、統合失調症のため休業加療

類型	症候	疾患
1、2、3	2. 一次誇大妄想	15. 統合失調症

きっかけ	<input checked="" type="checkbox"/> 健康診断の有所見	<input type="checkbox"/> その他の機会
1. 対象者のプロフィール 1) 年齢、既往歴 33歳 男性、既往歴は特に無し 2) 業種、作業内容 ロープ製造		
2. 就業制限・配慮の対象となった疾病、健診値異常 例) 高血圧、HbA1c 高値、腰痛など 統合失調症の疑い 職場での人間関係破綻		
3. 就業制限・配慮の内容 例) 高所作業禁止、出張禁止、残業禁止、配置転換、治具導入など 休業加療		
4. 事例の詳細 (背景、経緯、特に考慮した事情など) 話の内容であるが、自分は特別な使命を帯びた選ばれた人間であり、自分の考えを世界に発信する必要がある、というのが話の中心である。自分は科学にも哲学にも精通している、しかし他の人に自分の考えを説明するのは理解されないから無駄である、と主張している。自分はもっとクリエイティブな仕事をするための存在である、とも口にした。周囲の人間を完全に見下しているため孤立している。		
5. 就業制限・配慮の主な目的 (複数回答可) ① 業務が当該労働者の健康、安全、疾病経過、予後に影響を与える可能性があったため ② 企業リスクが予見されたため (交通事故、公衆災害の発生など) ③ 健康管理を促進するため (受診、治療を強く進めるため)		
6. 就業制限を実施するにあたって注意した事、阻害要因、問題点などあれば教えてください この会社では不思議なことに嘱託産業医を私ともう一人を指名していた。もう一人の先生は、本人は「治療の必要なし」と判断され、放置する方針をとった。私がすぐに面談し本人の承諾を取り付け、受診させて休業となった。複数の産業医間での判断の相違は問題をこじらせてしまう。		